



会長交代のご挨拶

横須賀水交會会長 中尾誠三



去る6月5日、横須賀平安閣で開催されました、横須賀水交會平成27年度定期総会において、土井克彦会長の後任として、会長職を拝命することとなりました中尾でございます。公益財団法人・水交會の数ある中の支部にあつて横須賀水交會はその会員数も多く、また支援すべき海上自衛隊の部隊も最大規模であり、このような支部の会長職は私にとって、身に余る重責であり果たしてちゃんと務まるか少なからず不安を感じてるところであります。

しかしながら、歴代の会長や諸先輩会員の皆様が営々と築かれた横須賀水交會の良き伝統を継承することにより、更なる発展の為に会員の皆様とともに尽力してゆくことが、重要であると感じているところが、重宝です。会員の皆様には土井前会長在任中と同様、ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、横須賀水交會も発足以来、来年で15年が経過することとなります。その間、大切な事柄として認識しなければならぬことは、何と言つても、平成23年の夏に水交會が公益財団法人として認定された事ではないかと思ひます。このことにより水交會組織の充実・運営の明確化、そして会員の一人一人が公益財団法人の一人であるという位置付けがはっきりしたことだと思ひます。このような環境の大きな変化はあったものの、横須賀水交會は前述のように歴代会長及び会員の皆様の尽

発行 平成27年11月11日
編集 横須賀水交會事務局

力により充実した基盤が構築されており、海上自衛隊への支援、会員相互の親睦・啓発、海洋安全保障思想の普及、そして慰霊顕彰等の諸活動に従来通り着実に成果を残しているとともに公益財団法人としての役割を十分に果たしていると思ひます。

とりわけ、土井前会長が掲げておられた、諸活動を通して横須賀水交會を無視できない「存在感と求心力を維持する」公益財団法人への移行を契機に水交會を内外に発信してゆぐためにも「会勢を拡充する」ことはもとより、次のことに留意しつつ職務が遂行できればと思ひつています。その第一は

我が国の昨今の安全保障に対する政策の変化により海上自衛隊の任務は従来にも増して多様化し、部隊の行動は活発化し、後方支援に対する重要性が増すものと考えられます。しかしながら現状では足らざるところが出てくるのではと危惧されます。その足らざる一部を民間(海上自衛隊の支援団体等)のボランティア

横須賀水交會主要行事予定

平成28年3月までの主要行事予定は、次のとおりです。なお、最新の情報は横須賀水交會ホームページ(<http://y-suikoukai.daa.jp/>)で御確認下さい。

1 幹事会

(1) 期日 12月16日(水)

(2) 幹事会

場所 横監会議室

時間 15:00 ~ 16:45

(3) 懇親会

場所 よこすか平安閣

時間 17:30 ~ 19:30

2 合同賀詞交歓会

(1) 期日 28年1月16日(土)

(2) 場所 横須賀商工会議所

(3) 会費 4千円(女性2千円)

3 靖国神社月例参拝

平成28年2月18日(木)

の力で支援する事が可能か、可能であればどのような形態が考えられるか横須賀地方総監部と連絡及び連携を密にして検討をしてゆく時期に来ているのではないかと思います。その第二は横須賀水交會は、4~5年前の会

員数は約650名でありましたが、会勢拡充に対する努力により現在では約850名に増加することができました。

横須賀水交會の会員は海自OB会員と有志会員ですが、海自OB会員の方は海上自衛隊についてある程度のことは周知している訳ですから、再就職の勤務上可能な方は積極的に横須賀水交會の事業に参画していただき、古巣の海上自衛隊に恩返し、あるいは微力ではありますが支援することににより役に立つことが必要だと思えます。また、有志会員の方は横須賀水交會の事業に少しでも多く参加していただき海上自衛隊を理解し、そして友人や知人にその良さを説き、しかる後にその輪を広げ、海上自衛隊の良き理解者であり、支援者であるとともに横須賀水交會の会勢拡充に寄与していただければと思っています。そして会員の皆様が海自OB会員、有志会員であることを問わず、水交會の事業に参加すれば旧知の方々と旧交を温めることに安らぎを感じ、老いて半生を振り返るとき横須賀水交會会員で良かった！という充実感を感じることができ

団体になれば、と思っています。

以上、横須賀水交會会長就任の挨拶にあたり、現在考えている一端を述べましたが、会員の皆様にお願ひする事ばかりとなり申し訳なく感じています。しかしながら、諸活動を通して横須賀水交會の発展に努力してゆく所存であります。また何かと至らぬこと、あるいは、ご迷惑をおかけすることが多々あると存じますが何とぞ、ご指導、ご鞭撻及びご協力のほどよろしくお願ひいたします。

【自衛艦隊司令官挨拶】

海将 重岡 康弘



本年8月に第48代自衛艦隊司令官を拝命しました重岡です。

横須賀水交會の皆様には常日頃から温かな御支援御高配賜っておりましてこと厚く御礼申し上げます。

海上自衛官でありながら横須賀勤

務は初めてとなります。着任以来地元の方々や協力団体の皆様との交流の中で横須賀の歴史、文化に触れはじめたところですが、帝国海軍、海上自衛隊そして米海軍とともに歩んでこられ、我が国の平和と安全のために大きな役割を果たしてきた横須賀についてさらに多くを知りたいと思っております。

さて、着任以来の最も大きな出来事は9月19日安保関連法案が成立したことです。

有事のために強い部隊を錬成訓練していくことは、これまで、そしてこれからも変わるものではありませんが、この度の安保関連法成立により有事に至らせないための抑止等のさらなる方策がとれることとなりますので、新しい日米ガイドラインへの対応を含め、急ぎその実効性を確保していきたいと考えています。

また昨今の鬼怒川の氾濫、阿蘇山の噴火やチリ大地震等、大きな災害が続いておりますが、自衛艦隊としても引き続きこれら災害に対する備えにも万全を期す要があると改めて認識をしているところです。

今年には戦後70年の節目の年である

とともに、幕末に起工した横須賀製鉄所(造船所)が創設150周年を迎えたと伺っています。海上自衛隊としましては創設から63年を迎え、帝国海軍77年の歴史を合わせると140年であり、節目の年となるこの秋に観艦式を実施いたします。拙稿が掲載される頃には終了していると思いますが、国民の皆様の自衛隊に対する理解と信頼を深めることができよう準備に万全を期したいと思います。

さて、我が国を取り巻く安全保障環境は依然として領土問題や力による現状変更の試み等不透明不確実さを増すとともに、純然たる平時とも有事とも言えないグレーゾーンの事態の拡散は、これらが重大な事態に転じる可能性を内在しているがゆえに、適切な対応を各国に求めています。自衛艦隊はこうした情勢認識の下、東シナ海等、我が国周辺海域における警戒監視やソマリア沖アデン湾における海賊対処活動などの任務に怠りなきよう日夜努力しております。

8月末には海上自衛隊初となる多国籍部隊の指揮官の任を伊藤将補が

無事完遂し帰国してまいりました。

その成果は大きく今後も継続して指揮官を担うべく調整しているところです。自衛艦隊の任務は新ガイドラインや安保関連法制の下で更に多様化していくものと思いますが隊員が日夜を問わず任務に邁進するとともに、有事に備え訓練精到であるためには、横須賀水交會をはじめとする地域の方々の御理解、御支援が不可欠であると考えております。引き続き隊員のみならず、その家族への支援も含め海上自衛隊にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、横須賀水交會の益々の御発展と会員の皆様の御健勝、御多幸を祈念申し上げ、御挨拶とさせていただきます。

【投稿】

「ファミリーサポート」

会員 佐野 恭子



7月11日は乾いた日差しが田戸台分庁舎の豊かな緑に、きらきら跳ね返る美しい日だった。この日、武居前横須賀地方総監、吉田横須賀市長、土井前水交會会長が糸口を作られた「家族支援」の最初の顔合わせの会が総監部主催、横須賀水交會支援で持たれた。暖炉のある、格式高い部屋で式典の最初、中尾水交會会長が「緊急出勤時にどうしても保護の得られないお子さんを預かる、ファミリーサポートを日本中に広めたい」と心をこめて宣言した。緊急登庁時の連絡、保険、食事とアレルギー、謝礼、研修、様々な視点から入念に検討された総監部・水交會からの支持が説明された。1時間、子供達は行義よく静かにしていた。かつての日本の子供は大人達が真剣に話合っている時、そうしていた。躰の良さと、兄弟仲の良さは会の間中感じた。初顔合わせを楽しいものにしようと横須賀上級海曹有志が中心となつてひらいたBBQとゲームの催しはまったたく、田戸台にお祭りを持ち込んだ楽しさだった。広い庭に綿アメ、水風船釣り、スイカ割り、日差しを遮る厚手のテント2張り、大きな氷

を投げ込んだアルミの金盥にビールのジュースの、ペットボトル、缶入り・・・冷えた西瓜の山盛り、サラダ・・・大人達が心一つに、子供達の為に暖かな、強い信頼関係を結ぼうとした。汗たらたらと伝わって火に張り付いていた、がっしりした男性隊員に聞いた。「そこでずっとBBQ、焼きそば、野菜炒め・・・どうもろこしを焼いていたのですか」大勢のお母さん達が豪華な料理をてきぱきテーブルに運び、片付け、冷たい飲み物を何時も飲めるように若々しく気を配った。「佐野さん、総監がピアノ聞きたいと言ってるよ」中尾会長が楽しそうに呼びに来た。猛練習して童謡を弾こうと思ったが、田戸台のスタンウェイのキーは、素人を寄せ付けない重さで、立ち往生した。本多副会長がすかさず「コーラスのお母さんはピアノも上手だよ！」彼女は走って来て、シヨパンを弾いてその場を湧かせ、童謡も弾いてくれた。子供達と「ぞうさん」を歌った！全員の心が一つになって、1個の生命体のようなチームワークだった。最後に集合写真！全員が実は遊びで集まっているのではないのはわ

きまえていた。焼けつく石畳の上に集合、「檜森、二階！二階から撮るんだ！」カメラマンが2段とびで二階に上がり、雨戸を開け、手すりから身を乗り出した。土井前会長が額からぶつぶつと汗を噴出させて石畳中央に立った。彼は「佐野さん、俺、別に会長だからって何をした訳じゃない、みんな周りがやってくれた。でも、会長職を退くと肩から重いものをよっころしよと降ろした思いだ」「そうですよ会長・・・インディアンの酋長のようなです、俺を倒してから行ってくれ・・・」カリフォルニアのインディアン博物館で誇り高い酋長達は威厳と威容に満ち、全部族を守る覚悟を見せて写真の中にいた。土井会長はインディアンの酋長のように、右手を突き上げ万感胸に迫る表情をして映っている。写真の右端に少年が、緑のポンポンを高く差し上げて、如何に今日の、大人達と子供のための1日が楽しかったか体現してくれた。井上横須賀地方総監はアロハを召して、ビール缶を持って少しはにかんで映っている。端の方で白い歯を見せている飛びつきり爽やかな笑顔の青年が管理部長梶元一佐

だ。全員が力一杯手を振ったのにただ、手を上げたように見えるのは余程シャッターが速いのだろう。



会の終わるのを待っていたように、松下元自衛艦隊司令官が、両手に持てるだけの椅子を抱えて、庭から階段を駆け上がった椅子を片付け、後片付けは、あつという間だった。上曹会メンバーが残った菓子、柿の種を子供達に持って行くように勧めた。全員が1つの生命体のようなだった。多くの人々の、困難な長い準備期間を経て、ファミリーサポートが一步を踏み出した。実際動き出せば、そ

の都度乗り越えなければならぬ困難が現れるだろう。けれども、このチームワークで、その都度乗り越えて行くだろう。私は名残惜しく西日の田戸台を下りた。

この街は、独特の歴史を持つ。4月22日横須賀製鉄所創設150周年記念の「横須賀と海の防人の伝統を考えるシンポジウム」が行われた。横須賀は幕臣小栗上野介のおかげで江戸末期から、日本の切り札となる重工業を発達させることができた。第一部、音楽隊は市の歴史を音楽で表現すると言う。ペリーのマーチ、咸臨丸で渡った米国でのマーチ、通訳の少年トミーのマーチ、そして「小栗のまなざし」・幕末に大活躍しながら斬首となった天才、小栗上野介を菩提寺の東善寺(高崎市)住職が、彼を惜しんで作曲を依頼した。曲は小栗が激しく憧れたであろうフランス風旋律、一変して拍子木、お遍路の鐘と、日本の音を活かした旋律は重工業による日本の将来像を描きながら、斬首された男の無念を雄大な音楽の中に甦らせた。第二部の第二術科学学校校長下蘆海将補がNHKスペシャルで放映した敗戦直後、すで

に第2復員省(局)で秘かに海軍の将来を描き、Y委員会ですれを現実のものとした男たちの(努力と知恵の結晶の)話をされた。私は驚き、無謀なほどの勇氣と誇りが嬉しく、同時にあつけにとられた。第三部は齋藤元統合幕僚長も参加されたパネルディスカッションで吉田市長は「小栗の考えたドックを世界遺産にできれば観光都市にもなれる」と発言された。

10月9日芸術劇場での観艦式に向けた音楽隊リハーサルには日本中の音楽隊が集結しエネルギー渦巻く舞台となった。横須賀音楽隊が今回投入した歌姫によるブッチーニ「私のお父さん」は凄い。折を逃さず、必ず我らの宝物を聞いてほしい。オペラの務まる力量と、熱く肉感的で、豊かな声にうっとり魅了される。地方隊は特色豊かで、佐世保音楽隊が「愚直なまでの隠れキリシタン」と紹介した、どこかがグレゴリオ聖歌の「ぐるりよぎ」、呉音楽隊の「宇宙戦艦ヤマト」。終わりは全音楽隊200人が舞台にひしめいて「海の防人」そして「われら海の子2015」。砂の音、波の音は何かが入った丸いも

のを揺すり、カモメはサククスだと思ふ。空間が海の藍、空の蒼に染まったような深い音楽が響き、海面のようにうねった。アンコールの拍手、そして「軍艦」、この時はバックスクリーンに旭日旗が映り、横須賀の贅を極めた。

「横須賀市政報告」

市議会議員・幹事 木下 憲司



横須賀市議会は、8月28日から10月6日の間、第3回定例会を開催しました。いくつかトピックスを報告します。

①請願「安全保障関連法案の廃案を求める意見書の提出について」の採決を行い、賛成18、反対22で不採択となりました。(つまり、同法案の早期国会可決を求める意見が多数ということ)

我が国防衛の最前線である横須賀

において、安保関連法案に反対する請願を否決できたことに安堵するとともに、横須賀市議会の良識を内外に示せたものと思います。この採決における安保法案に反対する会派は、「無所属みらい(7名)」、「研政(5名)」、「日本共産党(3名)」及び無党派(3名)でした。

②横横道路の料金値下げが内定しました。新しい料金体系は首都圏の高速料金を36・6円/kmに統一し、公平化を図るもので、現在の横横道路の料金は44円/kmで全線料金は1440円(平日)のところ、値下げ後は950円となります。この新料金は、来年4月から導入されます。

③横横道路にスマートICを建設することが決まりました。このスマートICは、上り線は横須賀PAに接続し、下り線は同PA付近で本線と直結する計画で、いずれも市道坂本芦名線に接続します。供用開始は平成33年4月以降の見込みです。このスマートICが完成すると、西地区との交通アクセス(輸送、観光)が各段に向上することが期待されます。

④地方自治法100条に基づく調

査を行うため、「吉田市長の不透明な市政運営に関する調査特別委員会」を設置しました。これは、かねてから議会として問題視してきました、⑦日本丸の久里浜港招致問題⑧ポートマーケットにおけるバーベキューパークの設置に関する問題⑨一般職の任期付職員(一般事務職)の任用及び任期後の採用問題を調査するものです。この特別委員会は自治法100条に定められた、議会としての調査権を行使し、執行機関(市長等)と議会との間の相互けん制により、地方公共団体の事務処理の適正化を図るものです。吉田市政にはこれまでにいくつかの不透明かつ不誠実な事項があり、これの是正のため、議長申し入れや問責決議などを行ってきたところですが、議会が改めて経緯を含め事実関係を究明するため、調査権を行使するものです。

【参加行事等紹介】

1 潜水艦「こくりゅう」

3月30日(月)潜水艦「こくりゅう」(艦長 伊藤裕雅2佐)が横須賀港に初度入港した。

「こくりゅう」は「そうりゅう」型潜水艦の六番艦として川崎重工(株)神戸工場において建造され、本年3月9日に就役し、同日第2潜水隊群第4潜水隊に編入された最新鋭艦である。

当日は、5月中旬並みの暖かい好天に恵まれ、横須賀地方総監、潜水艦隊司令官等各級指揮官、米海軍第7潜水艦任務群司令官、隊員、来賓、各協力団体及び家族等の出迎えを受け、横須賀音楽隊が歓迎演奏をする中、横須賀港吉倉岸壁に予定どおり入港した。我が横須賀水交會も中尾副会長以下多数の会員が初度入港を出迎えた。



入港後の歓迎行事では、伊藤艦長から潜水艦隊司令官への入港報告に引き続き、来賓代表として田神横須賀副市長の歓迎挨拶、艦長、先任伍長及び乗員代表への花束贈呈が行われ、最後に伊藤艦長からの戦力化に向けた力強い決意表明とお礼の挨拶で入港歓迎行事は終了した。

「こくりゅう」は横須賀に配備された2隻目の「そうりゅう」型潜水艦であり、戦力化を通じ、「そうりゅう」型潜水艦で導入されたAIP機関、非貫通潜望鏡、X舵等の新装備品の理解とオペレーター育成が一層進むことが期待される。

(吉岡俊一幹事 記)

2 砕氷艦「しらせ」帰国出迎え

砕氷艦「しらせ」(艦長 日高孝次 1佐、乗員180人)は、当初の行動予定(4月10日東京晴海入港)を変更し、4月1日(水)横須賀港に入港帰国しました。

「しらせ」は第56次南極観測支援に従事し、観測隊員の人員輸送、物資輸送(約1千トン)、越冬隊員の収容を完了し、任務を完遂しました。

横須賀音楽隊の演奏とともに、各

部隊指揮官、隊員、多数の家族が出迎え、小雨の降る中、静かに逸見岸壁に横付けしました。横須賀水交会も、多くの会員が自衛艦旗小旗と水交会旗を掲げ出迎え、乗組員の労をねぎらいました。



長期間にわたり、厳しい環境の下
の任務遂行に心からの敬意と感謝を
表します。(本多一雄事務局長 記)

3 練習艦隊横須賀入港歓迎

5月8日(金)、練習艦隊(司令官
中畑康樹海将補)が、近海練習航海
の最終寄港地である横須賀に入港し
ました。

本年度の練習艦隊は練習艦「かし
ま」(艦長 小沢輝男1等海佐)、護

衛艦「やまぎり」(艦長 橋本聖一2
等海佐)及び練習艦「しまゆき」(艦
長 小坏聖一2等海佐)の3隻で編
成され、横須賀音楽隊が歓迎の曲を
奏でる中、第65期一般幹部候補生課
程修了者約170名を乗せて逸見岸
壁に接岸しました。

岸壁では井上横須賀地方総監をは
じめ各級指揮官等多くの隊員、吉田
雄人横須賀市長、後藤祐一衆議院議
員をはじめとした多くの来賓、各支
援団体が出迎えました。



横須賀水交会も土井会長をはじめ
多数の会員が自衛艦旗小旗・水交会
旗を掲げ、横須賀入港を歓迎すると

ともに乗員の激励を行いました

入港歓迎行事は、吉田市長の「長
い実習航海に出るに当たり横須賀で
大いに英気を養ってください。」旨の
暖かい歓迎挨拶で始まりまし。引
き続き花束贈呈、来賓紹介、祝電披
露と進み、最後に中畑司令官から参
列者に対する感謝の言葉とともに
「実習幹部をしっかりと育ててきま
す。」という決意が述べられ、短い時
間ではありましたが心のこもった内
容の歓迎行事は終了しました。

同日夕刻、同市内において横須賀
市長、横須賀市議会、横須賀防衛協
会、横須賀商工会議所及び横須賀地
方総監部共催の遠洋練習航海部隊壮
行会が行われました。

壮行会は、主催者代表の吉田横須
賀市長の練習艦隊・実習幹部に対す
る激励から始まり、司令官及び澤地
清人実習幹部に対する花束贈呈と続
いた後、平松廣司横須賀商工会議所
会頭の発声により高らかに乾杯が行
われました。

和やかな雰囲気の中、多くの支援
者との歓談を通じて実習幹部は自分
たちに対する期待の大きさを感じ、
それに応えようとする意気込みが感

じられました。

中締めは、小山満之助横須賀防衛
協会会長の音頭による万歳三唱及び
その答礼として小沢かしま艦長の万
歳三唱、そして最後に荒川堯一防衛
協会副会長の音頭による乾杯で締め
くくられました。参会者一同名残尽
きない中、実習幹部の前途を祝して
万雷の拍手をもって見送りました。



壮行会終了後、場所を移して司令
官、各艦長、前任伍長等を招待して
横須賀水交会主催の歓迎夕食会が行
われました。井上横総監も参加され
た夕食会は、松崎顧問の乾杯の音頭
で始まりましたが、途中で歴代練習
艦隊司令官の激励の言葉などをはさ
みつつ、終始和やかな雰囲気の中で

の懇談により近海練習航海の労をねぎらいました。最後は中尾副会長の音頭による中締めの後、参会者がアーチを作り、司令官以下招待者総員を見送りました。

この後、練習艦隊は、東京(晴海)に回航し、21日から中南米等を巡る約5か月間に及ぶ遠洋練習航海に船出しました。(宮崎道夫幹事 記)

4 馬門山海軍墓地墓前祭に参列

第60回目を迎えた馬門山海軍墓地墓前祭が、5月9日(土)午前9時30分から約1時間にわたって厳粛に執り行われた。

参列者は、ご遺族の関係者を始め、吉田雄人横須賀市長、小泉進次郎衆議院議員、牧島功神奈川県議会議員、木下憲司横須賀市議会議員等、海上自衛隊からは井上力横須賀地方総監をはじめ各級指揮官、米海軍から在日米海軍司令部政務補佐官ジョン・ニーマイヤー氏、さらに主催5団体(大津地区連合町内会(本年度主幹事)、横須賀水交会、隊友会横須賀支部、大津観光協会、大津地区社会福祉協議会)それぞれの長・会員並びに一般参列者等計約370名(横須

賀水交会は土井会長以下35名が参加)に及び、祖国のために散華された英霊を追悼するとともに、わが国及び世界の恒久平和に祈りを捧げた。

墓前祭は、「国歌斉唱」に続き西原徹大津地区連合町内会長及び横須賀市長による「追悼のことば」、全員による「黙とう」、海自儀仗隊による「拝礼」及び「弔銃発射」、参列者の「献花」の順で行われた。

この間、今にも雨粒がこぼれ落ちそうな天気であったが、最後まで降雨なく式典が進行したのは、参加者全員の思いが通じたのだろう。



今回は、特に海自横須賀音楽隊の支援が得られ、開式までの音楽演奏や「君が代」、「国の鎮め」、拝礼・弔銃発射あるいは献花時の演奏によつて、式典が一層荘厳かつ和やかな雰囲気になった。また湘南学院高等学校学生による受付や献花の支援が、今年も式典に華を添えてくれた。

さらに前回同様横須賀水交会有志会員が腕章を着用して受付・誘導等の支援を行った結果、墓前祭の円滑な進行に欠くことのできない存在であることを強くアピールできた。

なお、読売新聞及び神奈川新聞が墓前祭を取材した。

当墓地には軍艦「河内」、「筑波」等の殉職者、上海事変戦死者等、海軍軍人の英霊1592柱が殉職者之碑・個人墓等に祀られているが、個人墓の古いものは設置されてから約130年が経過し損傷が激しく、一部には倒壊しているものもあったことから、公益財団法人水交会(横須賀水交会が実務を担当)が平成25年の半年間をかけて工事を行った。この工事については横須賀市長の「追悼のことば」にも紹介があり、

参加者はこの馬門山海軍墓地を後世に向かつて保存整備していくことの重要性をあらためて認識することになった。

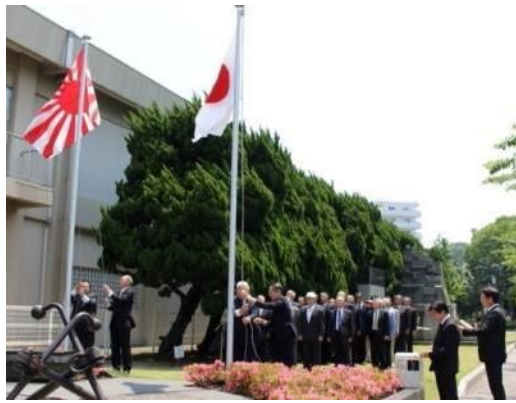


最後に、緑風のようにさわやかな態度や元氣な挨拶で式典の準備撤収を支援した横須賀教育隊隊員たち、節度ある挙措動作の横須賀警備隊儀仗隊、さらに事前清掃を行った横須賀上級海曹会など海自横須賀地方隊関係各部に対し、本紙面を借りて深甚なる感謝の意を表したい。(濱田暢喜幹事 記)

5 海軍の碑記念行事挙行

5月27日(水)正午に横須賀市ヴェルニー公園(JR横須賀駅前)内の「海軍の碑」前において、記念行事を行いました。

「海軍の碑」は、近代海軍創設から海軍成長とともに発展した軍港都市横須賀の歴史の象徴として平成7年11月17日、全国の海軍関係者及び有志の浄財により建立されたものです。



本行事は、海軍記念日(明治38年)

5月27日の日本海戦を記念して制定されましたが、昭和20年廃止)だったこの日に毎年行っており、平成13年までは横須賀海友会が、平成14年以降は海友会と合同した当会が実施を担当しています。

当日は晴天に恵まれ、気温は30度近くまで上昇しました。会員有志による事前清掃の打ち水もたちまち乾くほどで、参加者の体調への影響も心配されましたが、会員及び海軍の先輩等40名は持ち前の気力体力を發揮して、滞りなく整齊かつ肅々と行事は行われました。



次第は、ラッパ「君が代」の流れる中を国旗及び軍艦旗の掲揚に始まり、海軍英霊に対する黙とう、「海軍の碑」建立趣旨朗読、土井会長の挨拶、講話の順に進行しました。

この日の講師、佃剛顧問は、日露戦争開戦直前の新聞記事を引用し、当時の国際安全保障情勢がどのように報道されていたかを紹介されました。また、極東への艦隊回航に関するロシア側の意思決定にもふれ、不利は明白で多くが反対したにもかかわらず回航を止めることができない

かった事情を解説いただき、歴史のうねりや「空気」の流れを変えることの難しさを再認識することができました。



その後、鎮魂の譜として「同期の桜」「巡検ラッパ」「海ゆかば」の3曲を鑑賞し、国旗及び軍艦旗の降下をもって閉式となりました。

短時間ではありませんでしたが、行事は海軍の偉業を偲びつつ、祖国のため散華された多くの御霊に対する追悼の念と平和の祈りを捧げる厳粛なひと時となりました。

(濱田暢喜幹事 記)

6 平成27年度定期総会を開催

6月5日(金)横須賀水交會の平成27年度定期総会、講演会及び懇親会が、よこすか平安閣において盛大に開催されました。

総会は加藤幹事の司会により、物故者に黙祷をさされた後、会則の規定により土井会長を議長として、3つの議案について審議が行われ、いずれも賛成多数で了承されました。

その概要は次のとおりです。①26年度の事業及び決算報告については69名の新入会員があり、会員数は25年度末と比較し、17名増の844名であること、また、各事業とも計画どおり順調に実施されたこと。②新役員の選任については、土井会長が顧問に、中尾副会長が会長に、道家幹事長が副会長に、加藤幹事が幹事長にそれぞれ就任した他、新任、変更あわせて15名の幹事が選任され、中尾新会長の下で一丸となって運営していく体制が整ったこと。③27年度事業計画及び予算については、本部業務計画に基づく6つの活動方針ごとに事業計画を策定し、ほぼ例年どおりの事業規模と予算が計上されたこと。

ひととおりこれらの審議が終了したところで、「緊急登庁時の隊員留守家族への支援対策」に関して、総監部との調整内容を踏まえた具体的な検討結果等が永田幹事から報告されました。



審議内容も含めた一般討議においては①活動全般に関しては今後ともHP・新聞等を通じて会の活動内容を会員に逐次詳細に伝えていくこと、②隊員留守家族の支援に関しては、支援体制(会員)の募集、拡大に努めることが確認されました。次に本会員で平成26年度秋及び平成27年度春に叙勲受章された方々の紹介があり、当日参加された坂東勝昭会員に対し参加者全員が拍手を

もって祝福しました。

その後、齋藤水交会理事長から土井前会長に対する感謝状の贈呈、中尾新会長に対する委嘱状の手交、横監管理部長と中尾会長による「隊員留守家族への支援対策」に関する覚書の署名式と進み、最後に、中尾新会長の就任挨拶が行われ、総会は成功裏に終了しました。

休憩の後、「海上自衛隊の現状 主として護衛艦隊について」と題して、護衛艦隊司令官河村正雄海将による講演が行われました。

内容は、「我が国の周辺情勢」、「海上防衛力の変遷」、「海上自衛隊の最近の活動」及び「日米共同」の四項目でした。

まず「我が国の周辺情勢」の項では、東シナ海、特に尖閣周辺における中国艦艇及び航空機の活発な活動状況について、また「海上防衛力の変遷」の項では51大綱から25大綱に至る防衛力の役割の変遷とそれに伴う防衛力整備計画の推移等について、それぞれ数値を示しながらの具体的な説明がありました。

「海上自衛隊の最近の活動」の項では警戒監視・情報収集といった常

続的活動から現在実施中の海賊対処活動の現状、最近実施された各国との共同訓練、緊急援助活動、災害派遣活動の紹介、南海トラフ地震への対処構想及び多国間安全保障協力の推進に至る幅広い活動について説明をいただきました。



最後に海上自衛隊の最大のパートナーである米海軍との「日米共同」について説明され、講演を終了されました。

会員一同、この講演を通じて、改めて我が国を取り巻く安全保障環境が厳しさを増している現状と、それに伴う海上自衛隊の任務の重要性の増大について認識できた貴重な時間でした。

講演終了後、会場を移し、小泉進次郎内閣府政務官(兼復興担当大臣

政務官)、宇都隆史外務大臣政務官、吉田雄人横須賀市長、県議・市議、防衛関係諸団体代表及び鮎田自衛艦隊司令官等防衛省・自衛隊の部隊指揮官・先任伍長など、多数の来賓の臨席を得て、懇親会が行われました。



中尾会長からの挨拶に続いて、来賓を代表して吉田市長、小泉政務官、宇都政務官及び鮎田自衛艦隊司令官から祝辞を頂きました。皆様の祝辞からは横須賀水交会に対する深いご理解が感じられ、会員一同深い感銘を受けました。

引き続き来賓紹介、祝電披露へと進み、中西横監幕僚長の音頭で高らかに乾杯し、懇談に入りました。

会場のあちこちに再会と交流の輪が広がり、護衛艦隊司令官の講演内容等を話題にした防衛談義の花が咲きました。またこの中から水交會に入学していただければ幸いです。このコンペの目的を十分に果たすことができるものと考えています。たくさんの方に声をかけて参加者を更に増やしていただくよう今後ともご協力の程よろしくお願ひします。

(宮崎道夫幹事 記)

7 第30回横須賀水交會主催

ゴルフコンペ

6月8日(月)、第30回横須賀水交會主催ゴルフコンペを千葉房総半島のエンゼルカントリークラブにて開催しました。

当日は、梅雨入り直前ということもあり、スタートから曇りペースではあったものの雨に降られることなく、プレーには全く影響ありませんでした。

参加者は中尾誠三新会長以下56名、15組と前回より7名多い参加数で、民間から男性3名、女性1名、JANA F A個人賛助会員2名等の参加も頂き、にぎやかさを楽しくプレイをすることができました。

競技は従来どおり新ペリア方式で実施しました。ただし、同じ人が入賞しないように過去3回のコンペで1、2、3位に入賞した方は、新ペリア方式で出てきたハンディキャップからそれぞれ30、20、10%を減点することになっています。この減点は3回コンペに参加しないと消えません。



今回は、木谷正樹氏が、グロス90、ハンディキャップ12.0、ネット72.0で優勝、2位には今回初参加の乳井三治氏(108、36.0、72.0)が、そして3位は熊谷昭吾氏(77、4.8、72.2)がそれぞれ受賞という成績でした。



今回優勝の木谷氏は第19回以来2回目の優勝であり、見事に副賞のキャディバックを獲得し大喜びでした。木谷氏からは「同期4名と楽しく、自然体でプレーをさせていただきました。ありがとうございました。」との優勝コメントがありました。

また、ベストグロス賞には、ジュニアの部では熊谷昭吾氏がグロス77で、ベストグロス賞ウーマンには、今回のコンペで紅一点の山本みづ江氏がグロス95で、シニアの部では過去六回優勝の近藤義美氏がグロス80で前回に引き続き受賞されました。

水交會主催コンペは会員の親睦を目的としたゴルフ大会ですが、水交

会会員のみなならず、陸海空自衛隊のOBや友人・知人・家族まで幅を広げて参加者を募り、水交會の活動に理解を深めていただければ幸いです。またこの中から水交會に入会していただければ幸いです。このコンペの目的を十分に果たすことができるものと考えています。たくさんの方に声をかけて参加者を更に増やしていただくよう今後ともご協力の程よろしくお願ひします。

(迫幸一郎幹事 記)

8 海洋観測艦「すま」自衛艦旗

返納行事

6月26日(金)横須賀港船越岸壁において、海洋観測艦「すま」(艦長秋元則仁2佐)の自衛艦旗返納行事が、井上横須賀地方総監により執行されました。

当日は、鮎田自衛艦隊司令官をはじめ各部隊指揮官等部隊関係者、横須賀市長、各官公庁関係者、歴代海洋業務群司令の他、各防衛団体等も多数参列し立派な式典となりました。横須賀水交會も中尾会長以下多数の会員が参列しました。

行事は横須賀音楽隊の国家吹奏の

もと、自衛艦旗降下に始まり、井上横須賀地方総監への自衛官旗返納、総監訓示、軍艦行進曲にあわせた「すま」乗員の退艦、艦長の退艦報告まで厳粛かつ整齐と行われました。



「すま」の業績について訓示から引用しますと、「すま」は海上自衛隊3隻目の海洋観測艦として、日立造船舞鶴工場で昭和55年9月24日起工、昭和56年9月1日進水、昭和57年3月30日に就役しました。就役と同時に海洋業務群に編入され、今日まで約33年間、気象、海洋、音響データの収集任務を遂行し、海上自衛隊の作戦に必要な海洋環境の解明という海洋業務群の任務遂行に大きく貢献しました。

今日に至るまでの33年間に従事した業務は、海洋観測124回、技術協力8回、試験協力19回、教務協力11回、災害派遣2回をかぞえ、その総航程は69万2940マイル、総航海時数は7万2659時間に及んでいます。



ここに、「すま」の輝かしい業績を称え歴代艦長はじめ乗組員のご尽力に深甚なる感謝と敬意を捧げます。

(宮崎道夫幹事 記)

9 平成27年度夏期防衛講座

7月25日(土) 横須賀地区防衛諸団体共催の横須賀夏期防衛講座が、

記念艦「三笠」講堂において開催されました。



今回の講師は、横須賀所在の防衛大学校長 國分良成氏ということもあり、当日は、今年の夏を象徴するような猛暑ではありませんでしたが、現役自衛官を含む来賓及び各団体会員約200名の聴講者が集まりました。

第一部「講演」は、小山横須賀防衛協会会長挨拶後、中尾横須賀水交會会長が講師を紹介し、國分防大校長が登壇、「習近平体制下の中国と日中関係」という演題で講演が始まりました。

講師は、冒頭、過去の多数の講演の中でも最も緊張したという福澤先生ウェーランド経済書講述記念講演会を引き合いに出され、「三田演説館では、福澤先生の肖像に背後からにらみつけられているという感覚でし

たが、今回は、そこかしこに東郷平八郎元帥ほかの諸提督がにらみを利かせておられるといった別の緊張感を持つております。」と、ユーモア交じりに心境を語られ、聴講者の興味を引き付けて、講演を始められました。

本論では、現代中国政治を専門的に研究されているお立場から、習近平体制中国の現状及び今後の動向について、内政については権力・利益・党支配体制・正当性を、外交については国際協調か中国的価値かを、そして、日中関係については戦略的互恵関係の再提起を切り口にして、わかりやすくご説明頂きました。

特に、先生は、講演時間が約1時間と制約されていたことから、最初に、本講演の結論部分である「内向きで、国外の評判等は気にせず、自分を守ることしか考えていない。」といった、中国執行部の対応姿勢の特徴を端的に示されたうえで、レジメに沿って解説を加えるという講話手法を採られました。

先生のご配慮のお陰で、講演は、私どものような素人にも理解しやすいものとなりました。講演が進むに



つれ、聴講者が身を乗り出して聞き入る姿に、先生も講演に熱が入ったのでしょいか、終了時刻が近づいても、先生は、「締め切り過ぎると締め切りなし。」と言って笑いを誘いながら、質問時間いっぱいまで、講演に時間を使われ、準備された内容のほとんどをお話いただきました。
 聴講者は大いに満足し、万雷の拍手の中、講演は終了しました。
 講演後、小山会長から、謝意を込めた記念品を贈呈し、第一部は終了となりました。

第二部「納涼懇親会」は、場所を「神奈川歯科大学学生食堂」に移して実施されました。
 講師の國分校長にもご出席をいただいたことから、会場には、先生の薫陶を受けた「にわか中国研究家」諸兄が大挙集合するなど、和やかな雰囲気の中にも、熱っぽく意見を交換する場と化しました。

予定した時間は瞬く間に過ぎ、名残惜しさのある中、参会者は、一様に満足そうな表情で、家路につきましました。
 (乳井三治幹事 記)

10 第一護衛隊「むらさめ」、
 「いかづち」帰国迎え

8月30日(日)、小雨の中、ソマリア沖及びアデン湾において、第21次海賊対処活動に従事していた部隊(指揮官 第一護衛隊司令 中筋篤1佐)の護衛艦「むらさめ」(艦長 藤井健志2佐)と同「いかづち」(艦長 外園和治2佐)乗組員合計約360名が任務を終えて、横須賀に入港、帰国した。当該部隊は、今年3月出港、現地で護衛活動等を行い、任務を終了し、この度帰国したものである。



井上横須賀地方総監執行による帰国行事は、石川博崇防衛大臣政務官、日本船主協会関係者、吉田横須賀市長、重岡自衛艦隊司令官ほか各部隊指揮官、隊員、家族など多数が参加して行われた。横須賀水交会も中尾会長ほか多くの会員が参加し、水交会旗を掲げて出迎えた。

帰国行事は、隊司令帰国報告、内閣総理大臣からの特別賞状授与、防衛大臣政務官訓示、自衛艦隊司令官訓示、来賓紹介の順で粛々と進められた。雨の中で整齊と整列した両艦乗員の逞しく、凛々しい態度は、任務を完遂した誇りに満ちており、頼もしいものであった。

公表された資料によると、第21次派遣海賊対処行動水上部隊までの累計護衛実績は3600隻に及んでいる。また、伊藤弘海将補が今年5月から8月27日まで指揮官として勤められた、第151連合任務部隊(CTF151)の指揮下では、ゾーンデイフェンスを行い、99日にわたる行動を実施したが、これらの成果は国際的にも高く評価され、関係各国から、格別の感謝をされている。



海賊対処は、長期間にわたる任務遂行であり、厳しい環境条件のもとでの緊張は計り知れないことと考えます。国際的な責務を果たし、国益に寄与した指揮官及び乗員各位に対

して、深甚の感謝と敬意を払います。乗組員の皆様には、短期間かと思えますが、休養され英気を養ってください。 (本多一雄事務局長 記)

【トピックス】

1 浜空鎮魂の碑慰霊祭に参加

4月5日(日) 浜空会(横浜海軍航空隊の会)は、横浜市金沢区富岡総合公園内の浜空神社跡地において、「浜空鎮魂の碑慰霊祭」を斉行した。横浜海軍航空隊は、昭和11年10月1日に浜空神社を中心とした広大な陸上の敷地と、現在は埋め立てられている根岸湾水上の飛行艇発着場を専有していた。当時は隊員約1,000名、大型飛行艇24機を有する海軍最大の飛行艇専門航空隊としてその威容を誇っていた。

今回の慰霊祭には、当時横浜航空隊に所属していた 甲飛予科練6期横溝潔氏(96歳)をはじめ御遺族及び横須賀水交会、湘南水交会等の海自OBも参列した。

また今回初めて海上自衛隊先任伍長官前曹長、横須賀地方隊先任伍長関曹長の両名が休日を返上して先人の尊い命を偲ぶため慰霊祭に駆けつ

けてくれた。

慰霊祭は、軍艦旗掲揚に引き続き神職の祝詞奏上、玉串奉呈の順で行われた。慰霊祭終了後には公園内の満開の桜の元で懇親会が催される予定であったが、あいにく天候が悪く献杯のみの実施となった。献杯に先立ち横溝潔氏から当時のお話を聞き引き続き三浦半島防衛協議会会長長崎氏、海上自衛隊先任伍長官前曹長の挨拶の後、横須賀水交会監査幹事信兼氏による献杯により慰霊祭は終了した。



横浜海軍航空隊は、昭和16年12月8日大東亜戦争が勃発するや直ちに第一線に出勤し、飛行艇の強大な航続力を発揮して洋上大遠距離の哨

戒・攻撃・輸送・救出作戦を展開し、

ハワイ・インド・アリューシャン・豪州・ソロモンにわたる広大な戦域を駆け巡り勇戦奮闘した。作戦上部隊名を801航空隊に変更し戦争終期には兵力集中のため宅間航空隊に全飛行艇を集結して沖縄攻防戦に死闘を演じ満身創痍全力を尽し果たして戦いの幕を閉じた。中でも横浜海軍航空隊はソロモン最前線のツラギに進撃作戦中強力な敵の反撃を受け昭和17年8月宮崎司令以下338名が壮烈な玉砕を遂げたのである。

多くの戦史文献を眼のあたりにすればするほど、当時の壮絶な戦いが蘇り、海上自衛隊OBとしては胸が熱くなり、大先輩の英霊に対し敬意を表し今後も慰霊顕彰の灯が絶えないよう快く行事に参加したいと強く心に刻んだ次第である。

浜空会を運営しておられる、事務局加藤亀雄氏もすでに80歳を過ぎ、長年続けてこられた経緯をお聞きしたところ、多聞に漏れず後継者がおらず今後の慰霊祭の開催を危惧されておられた。この問題は、個人ではどうすることもできないものであるため、多くの方に実情を理解してい

ただき、この横浜海軍航空隊に思いを馳せて祖国を旅立ち、日本のために尊い命を捧げられた多くの御霊に永久に慰霊を捧げられるよう、皆様のご協力をお願いしたいと思います。(高橋進幹事 記)

2 さようならジョージ・ワシントン

4月30日(木)、米海軍空母ジョージワシントンの転籍に伴い、これまでの日米安全保障への貢献とその乗組員に対する感謝の思いを込めた送別の宴が、日米ネービー友好協会及び横須賀商工会議所主催、横須賀防衛協会(水交会、隊友会)共催により、よこすか平安閣において行われました。



送別会には、ジョージワシントン乗組員等約170名を招待し、開催団体会員及び現役の自衛官等を含め約455名が参加しました。

送別会は、参加者の暖かい拍手の中、ジョージワシントン乗員が艦長を先頭に入場するところから開始されました。

まず、本送別会の主催者及び共催者の代表紹介があり、続いて日米ネービー友好協会杉本正彦会長、吉田雄人横須賀市長、第70任務部隊司令官ジョン・D・アレキサンダー少将、河村正雄護衛艦隊司令官及びジョージワシントン艦長キューハウス大佐の挨拶の後、横須賀市、日米ネービー友好協会、商工会議所及び「いずも」とジョージワシントンとの間で記念品交換が行われました。

ジョージワシントンからは航空機が空母に着艦する時に、制動のために使用されるワイヤーロープが送られました。

記念品交換の後、第7艦隊司令官ロバート・L・トーマス中将の音頭で乾杯が行われ、歓談に入りました。そこで、英語での楽しい会話で盛り上がっていました。楽しい時間

はあつという間に過ぎ、鮎田英一自衛艦隊司令官の中締め乾杯の後に、全員で、ジョージワシントン乗員を見送り、閉会となりました。

(廣江清幹事 記)

3 隊員家族支援策を小泉衆議院議員へ説明

横須賀水交會では、過日機会を得て、神奈川県11区選出の小泉進次郎衆議院議員(内閣府大臣政務官)に對し、現在横須賀水交會が進めている「隊員家族支援策」の概要説明を実施しました。



これは、かねてから隊員家族支援策に強い関心を示されていた小泉議

員が、先般行われた馬門山海軍墓地墓前祭に参列されたおりに、土井会長から「横須賀水交會の懸案であった隊員家族支援策の制度設計がやっと成り、6月初旬の総会での承認を経て同事業を発足させる運びとなりました。」と話されたところ、議員から「ぜひとも、その内容をお聞かせいただきたい。」との申し入れがあったことから、急遽5月17日(日)の自民党横須賀支部大会終了後、同会場(横須賀平安閣)の一室で説明を実施したものです。

本会側からは、会長に加え、担当である山口及び高橋(進)常務幹事が参加し、議員側からは、小泉議員及び秘書2名が参加されました。なお、当該支援策の海自側の担当となる横須賀地方総監部関係者及び横須賀水交會幹事でもある木下市議会議員も参加していただきました。

説明内容は、当該支援策策定の背景と目的、支援の前提と態勢、更には事故等への対応等についてでありましたが、議員は時折質問を挟みながら、極めて熱心にお聞きになり、しっかりとその全体像を理解されたようでした。主な質問は、緊急呼集

要領から隊員家族の現状、支援を期待する隊員規模、更には「このはな園」(海自第2術科学校内に設置された託児所)の運営状況に至るまで極めて多岐にわたるもので、その関心の深さを示すものでした。

説明の後の懇談では、次のようなことが語り合われました。

○ 不測事態への備えは、安本法制の制定のみに留まらず、この種縁の下の支えがあつて実効足らしめることができます。

昨今の厳しい情勢下における我が国の安全保障を考える時、このような地に足の着いた隊員に対する支援策は極めて重要です。

○ 何もせずに語っているだけでは物事は先に進みません。国政レベルと地方自治体レベルが協力して実施していくことが重要です。説明を受けた支援策は機会を掴まえて各所へ発信していく必要があります。

○ 本施策を推進する上で、児童を預ける側と預かる側の信頼関係の醸成が重要で、そのための両者の交流会を計画実施するこ

とが重要です。計画される交流会には、ぜひとも参加させていだきたいと思えます。

○ 当該事業は、横須賀しかも海自隊員に限定された活動ですか。
当該事業は現時点では横須賀水交會の単独事業であり、その性格上対象は海自隊員に限定しておりますが、他地区の海自部隊及び陸空自にも同様の趣旨の活動があります。

この種の事業は本会に執っても初めてのケースであり、先ずは本会で事業化し、その推進の過程で生ずる諸問題にはその都度対処して行く形態を採らざるを得ないものと考えております。従って、その時々で必要に応じて他団体との協力の在り方を模索する必要が生まれてくるかも知れません。

以上が、今回の小泉議員への説明と懇談の概要です。

海自隊員に対する「隊員家族支援」は大変重要な海自支援活動であり、ぜひとも成功裏に実現すべきものがあります。本会事業がその先駆けとして極めて注目度の高いものとなる

ことは疑いの余地の無いところであります。そのためにも、より多くの本会会員がファミリーサポート会員へ登録してくださることを願ってやみません。趣旨に賛同される方は次の担当常務幹事のいずれかにご連絡ください。皆様の連絡をお待ちしております。

加藤保幹事：090-1248-4829

山口透幹事：090-1694-2690

高橋進幹事：080-5083-2933

(高橋進幹事 記)

4 日本海海戦110周年記念

式典に参加

5月27日(水) 夏を思わせるような陽気の中、記念艦「三笠」において、日本海海戦110周年記念式典が挙行されました。式典は、海上幕僚長武居海将、第7艦隊司令官トーマス中将、吉田横須賀市長をはじめ多数の来賓が列席され、立ち見が出るほど多くの方が参列されました。

横須賀水交會からも多数の会員が、「海軍の碑」記念行事に引き続き参加しました。

式典は中塚三笠保存会事務局長の司会により開式され、国歌斉唱、戦

没者に対する黙祷、増田三笠保存会会長による式辞、井上横須賀地方総監、トーマス第7艦隊司令官及び吉田横須賀市長による祝辞、主要来賓紹介、祝電披露の順で粛々と行われました。式典終了後には、一龍齋貞花講師による講演「日本海海戦」が披露され、満員の聴衆を魅了してしました。



また、中部甲板において、海上自衛隊の第2の歌姫 中川1士の司会進行により海自横須賀音楽隊演奏会が行われ、中川1士のみならず、男性隊員による歌唱も披露され、甲板上を埋め尽くした聴衆は割れんばかりの拍手を送っていました。

その後、祝宴となり参加者は十分に満足された様子でした。

(檜森晃治幹事 記)

5 靖国神社等月例参拝

6月18日(木) 恒例の靖国神社等月例参拝を実施しました。

水交會の月例参拝は、旧海軍及び海自OBを主体に行われていたが、今回、旧海軍出身者は、兵学校68期の小柳正一氏以下、甲飛会、予科練の方々11名、海自OBは、幹候1期の曾根龍男氏以下クラス代表34名、その他有志会員8名、電子会1名及び水交會本部6名の合計60名でした。更に、横須賀水交會からの参加者に加え、74名の大人数の参拝となりました。

今回の特徴は、幹候6期が60周年記念で14名も参加されたことと、女性陣を中心にした有志グループ8名が参加されたことです。

横須賀水交會については、昨年2月は27名、7月は32名と多人数でしたが、今年は2月10名、6月14名と少なくなっています。しかし、この減少傾向にある中で、14名中、初参



加者が5名もあつたことは明るい話題です。現役の活動が幅広くなるに従つて、水交會の活動もファミリーサポート等、現役に対する支援活動も増え、併せて会社の仕事等、様々な都合もあることとは思いますが、今後も積極的な参加を是非呼びかけていきたいと思ひます。

また、参加者の意見として、パソコン操作が自分でできず、家族に頼むようなことがあるという事情の方もあり、今後は早めに案内を出すようにしたいと考えています。

当日は梅雨の雨が續いており、一日中雨の予報でしたが、結果は曇り空で気温も最高26度と穏やかでとても良い日になりました。

千鳥が淵では墓苑奉仕会から、最近の慰靈参拝等の状況説明があり、両陛下のパラオ訪問や戦後70周年関連で戦没者の関心が高くなつてゐること、遺骨収集から受領、検査、DNA鑑定が行われた後、遺族や墓苑



靖國神社では小方孝次権宮司から、7月13日からの御靈祭りのご紹介、戦後70年で世代交代が進んでゐること、外国からの参拝もあり理解が広がつてゐると思はれること等のお話があり、最後に今回は幹候6期、有志グループ、横須賀水交會という3団体の参加があり盛況で、更に女性の参加が増えていることは御靈も喜んでゐるでしょうと付け加えられました。

に納められることの説明がなされませんでした。

また、平成26年度の収容実績は902柱であり、まだまだ、多くの未帰還があることが問題であるとの報告がありました。

この件に関しては、昨年から国会における佐藤、宇都両議員等の活動により遺骨収集推進法案化等の活性化が図られ、厚生省、外務省に加え、防衛省が積極的に参画するようになって改善されてきてゐるものの、戦後70年経つても半分以下の達成率の状況では、国を挙げて更に本腰を入れる必要があるだろうというお話がありました。奉仕会からの説明の後、各自、生花を手向けてお祈りをしました。なお、玄関の傍に古代蓮がきれいな花を咲かせてゐました。

續いて向かった、防衛省慰靈碑では、海幕総務課長、わだつみの会会長に出迎えられ、幹候1期の曾根龍男先輩が代表して献花し、慰靈参拝を行いました。

その後、水交會本部に移動し、はじめに泉企画総括常務幹事から坂東勝昭先輩の叙勲の紹介があり、参會者一同で祝福をしました。



坂東先輩の献杯により、始まつた直会では先般実施された海軍の碑記念行事の折に佃顧問が話された「日本海海戦当時の日露海軍のバックグラウンド」の資料を配布して当時の器材と人に関する現状を再確認するなど、有意義な時間を過ごしました。

坂東先輩や泉総括幹事の貴重な経験談を堪能するには1時間半では不十分でしたが、梅雨空のこともあり、次回2月の参拝を期して家路に就きました。(柳井誠也幹事 記)

5 吉田横須賀市長と懇談

7月10日(金)、中尾会長と土井前会長他数名で、吉田雄人横須賀市長を表敬しました。

当日は市長とともに車座ランチを行い、和やかな懇談の機会となりました。横須賀市の振興、隊員家族の支援、市長の米国ブレマートン訪問予定など話題は尽きなく、今後の相互の協力等について話し合いが行われました。



6 横須賀地方隊緊急登庁支援 訓練研修

横須賀地方隊は、7月25日(土)早朝に緊急事態発生時における緊急登庁支援訓練を実施しました。この訓練は、子供を連れて登庁した隊員のために託児所を開設し一時的に小学生以下を預かる支援訓練であり、

平成25年度から実施しており今回で3回目です。

早朝0653に東海地方で大地震が発生したという想定で緊急呼集が下令され、緊急登庁支援訓練が発動されました。訓練は3回目ということもあり、訓練内容も概ね確立されているようですが、転勤等で対象隊員の入れ替わりがあることから新対象者への教育と練度の維持のため定期的に訓練が必要であると位置づけられています。

横須賀水交會は、緊急登庁支援の一環として本訓練を研修しました。訓練当日、中尾会長以下ファミリーサポート会員及び配偶者等18名が1000から1100までの1時間、訓練場所である厚生センターにおいて横監厚生課家族支援担当から訓練内容のブリーフィングを受け、その後、小人数のグループに分かれて訓練を見学しました。

緊急登庁において、隊員家族の一時預かりを実施するよう横地隊例規に定められている横須賀基地業務隊司令以下横基業隊員総員が休日出勤し訓練を実施しました。緊急呼集の一報を受け、それぞれ

の自宅から最短の交通機関を利用して部隊に登庁した横基業隊員は、託児所の開所指示を受け厚生センターに向かい受け入れ準備を開始し、厚生センター2階入り口付近に受付と談話室に本部と育児室を手際よく開設しました。

準備ができたところで横基業司令から横須賀地方総監へ受入れ準備完了報告がなされ、横須賀地区所在部隊へ一時預り準備完了を通報し子供とともに出勤した隊員が、厚生センターに集り子供を育児担当隊員及び事務官に託しそれぞれの部隊へと向かいました。

なかには、環境の変化と見慣れない人々に泣く子供もおり、母親も心配そうな顔で我が子を見つめていましたが、任務のためと後ろ髪を引かれながらも部隊へと向かって行く光景には考えさせられるものがありました。

今回は訓練ということで見学のみとしていましたが、参加した提供会員及び配偶者の中には、子供たちと直接ふれあう事が出来ないのかと残念な様子の方もおられ、訓練研修の成果は十分にあつたと思われま

緊急登庁においては、自衛官が部隊にいち早く復帰し、国民の生命と安全を守るための活動をするためには、隊員自身の強い意志と併せて家族の理解が必要であることは言うまでもありません。



幼い子供に、自分の家族の状態を理解させるには困難かもしれませんが、隊員にかわって幼子の面倒を見てくれる制度があることにより、当該隊員が安心して勤務に邁進できる環境が確立されることは周知の事実です。この制度をより有効に活用していくためには、実動を伴った今回の訓練が重要であることを実感した次第です。これらを踏まえ横須賀水

交會が現在取り組んでいる隊員留守家族一時預かりも、更に隊員家族の要望に沿った支援ができるような柔軟な内容が必要となってくるものと考えております。

最後に、今後の訓練において真摯に従事する隊員及び横須賀地方隊のたゆまない努力に敬意を表するとともに、関係各部隊の隊員家族に対する温かい思いに称賛を送ります。



今後は、隊員家族の面倒をみるこの制度の重要性を再認識し、任務遂行に邁進する隊員と留守家族のために総監部と意志疎通を図り、更なる支援態勢の充実を進める必要があると強く感じました。

叙勲受章者

次の会員の方が叙勲を受けられました。(敬称略)

春の叙勲

瑞宝小綬章 坂東 勝昭

〃 日原 哲兵

訃報

本年4月以降、次の会員が逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。(敬称略)

山下 裕嗣 平成27年6月25日

高澤 英介 平成27年7月11日

幸島 博美 平成27年8月26日

金子 義行 平成27年9月26日

林 信彦 平成27年10月8日

寺尾 元宏 平成27年10月14日

(本多一雄事務局長記)

新(編)入会員

(27年3月〜27年9月)

次の方々が横須賀水交會に新たに入会(編入)されました。(敬称略)

石濱哲信(航字24) 池部定久(幹候

34) 田口慶明(幹候32) 後藤由美子

(有志) 相澤淳(防研) 柴田公雄(幹

候33) 船山眞弘(幹候09) 阿部葉子

(有志) 村田耕一(幹候33) 岡田信良

(有志) 野村彰夫(有志) 森本益夫

(有志) 友田圭司(有志) 門香折(遺

族) 長谷川剛生(有志) 石井順(幹

候37) 尾頭誠(有志) 鷲一博(横

教) 荒川貴美男(部内89) 中村恵巳

子(有志) 上田裕司(部内88) 瀬戸恵

美子(有志) 平間洋一(幹候08) 高城

琢磨(有志) 渋谷光則(有志) 小池新

太郎(有志) 経塚義也(有志) 福島健

一(有志) 藤田慎一(部内92) 上野茂

博(有志) 村本淳弘(幹予07) 工藤

守(幹予) 森田宏弥(有志) 鈴木大資

(有志) 徳丸伸一(幹候32) 寺島宏

明(公募) 小松敏雄(有志) 福田健司

(有志) 鍛冶雅和(幹候31) 青木陽

(幹候27) 野崎 司(有志) 三輪一雅

(幹候34) 中島宗助(有志) 外塚勉

(幹予06) 毛塚 元(部内91) 佐藤良

美(有志) 谷郷玲子(有志) 谷郷花圭

(有志) 神戸富吉(有志) 石井昌行

(有志) (高橋陽一幹事 記)

【編集後記】

安保関連法案が成立し、海上自衛隊の活動も多様化するとともに、米海軍との連携もさらに密接になることと思われます。

私事で恐縮ですが、先月、息子の

結婚式でハワイに行った折に遠航以

来30数年ぶりにパールハーバーに行

ってきましたが、ツアーではなく単

独で行ったため、日本人観光客は

我々のみで周囲は皆外国の方とい

ことで、いやがうえでもアウェー感

を味わうこととなりました。

そんな折、ふと遠く向い側の岸壁

を見ると、なにやらどこかで見たよ

うな艦影があるではありませんか。

そこには我らが「ひゆうが」と「あ

しがら」の雄姿が。



遠い異国の地で、しかもアウェー感に襲われていた中で見た、我らが護衛艦の雄姿は海自と米海軍の緊密な関係の象徴のようで、まことに心強いものがありました。

(編集担当 宮崎)